

# マタイによる福音書

～堀川寛による広島弁訳～

(広島弁訳の意味) (訳者の解説・蛇足)

## 第5章

イエス様は集まった人々を見て、山に登っちゃった。腰を下ろすと、弟子たちがねき(そば)へ寄ってきた。イエス様は口を開き、ご自分の教えを語られたんじゃ。

「祝福される人とはのう、霊の満足を求めとる人じゃ。

天の国はその人のもんじゃ。

祝福される人とはのう、悲しみにくれとる人じゃ。

慰られることになるけえのう。

祝福される人とはのう、優しい人じゃ。

この地はそういう人のためにある。

祝福される人とはのう、正しいことを必死で求めとる人じゃ。

その願いはきつと叶えられる。

祝福される人とはのう、情けをかける人じゃ。

情けを受けることにもなる。

祝福される人とはのう、無垢な人じゃ。

神様にお会いできるじゃろう。

祝福される人とはのう、平和のために働いとる人じゃ。

神様の子と呼ばれる価値がある。

祝福される人とはのう、正しいことをしとるのに苦しめられる人じゃ。

天の国はその人のもんじゃ。

わしのために非難され、ひどい目に遭い、身に覚えがないのにぼろくそ言われるようなことがあったら、それ以上の祝福はないで。喜びんさい!プチ(とても)喜びんさい!天にはえらいご褒美が待つとるで。(旧約聖書の)預言者らを見てみんさい。おんなじおようにひどい目におうとるじゃろうが。」

「あんたらあ地の塩じゃ。ほいじゃけえ、塩のくせに塩辛うのうなったら、どうやって塩味をつけらりょうか。そんな塩は何のやくにも立たんけえ、してられて(捨てられて)、踏みつけられるだけじゃ。

あんたらは世の光じゃ。町が山の上にあったら、どっからでも見えようが(見えるだろう)。蠟燭を灯して井をかぶすもん(者)はおらん。台の上に置こうがあ(置くだろう)。そうすりゃ家ん中を照らすことがで

きる。それとおんなじじゃ。あんたらの姿をみんなに見てもらいんさい。あんたらがええことをしたら、それを見た人らは天のお父さんを誉め称えることになるけえのう。」

「わしが来たんは律法や預言者(旧約聖書のこと)をぶち壊すためじゃ思うなよ。ぶち壊すためじゃのうて、その教えを全部成し遂げるためよ。よう聞いとけよ。すべての教えが成し遂げられ、この天地がのうなる(なくなる)まで、律法から一点一画ものうなることはない。

ほいじゃけえ、律法の中の一番こまい(小さい)掟を破ったり、破ってもええゆうて教えるようなもんは、天の国における資格はない。守ろうとするもん、守るように教えるもんは、天の国じゃあ大物じゃ。言うとかがのう、あんたらの正しさが、律法学者やファリサイ派の正しさに負けとったら、天の国に入ることはできんで。」

「あんたらが聞いとるとおり、律法には『殺すな。人を殺した者は裁きを受ける』と決められとる。ほいじゃがわしや言うとかでえ。仲間に腹を立てるもんはみな裁きを受ける。仲間をバカ呼ばわりするようなもんは、裁判にかけられ、アホウ言うもんは火の地獄へ直行じゃあ!じえけえのう、あんたが神殿に供え物を献げに行く途中で、友だちとケンカしとるんを思い出したら、供え物は置いといて、まず友だちと仲直りをしんさい。それから神殿に戻って、供え物を献げんさい。訴えられて裁判所に連れて行かれそうになったら、とにかく和解できるようにがんばりんさい。裁判になってしもうたら、もうなんもできんで、牢屋に入れられてお終いじゃあ。そうなったら罰金払い終わるまで一步も外に出れんで。」

「あんたらが聞いとるとおり、律法には『姦淫するな』と決められとる。ほいじゃがわしや言うとかでえ。いやらしい気持ちで人の奥さんを見るもんは、はあ(既に)心ん中で姦淫を犯しとる。もし、右目があんたに悪い思いを抱かせるなら、えぐり出して捨ててしまいいんさい。体の一部がのうなっても(なくなっても)、全身が地獄に投げ込まれるよりましじゃろうが。もし、右手が悪いことをしてしまうんなら、切って捨ててしまいいんさい。体の一部がのうなっても(なくなっても)、全身が地獄に投げ込まれるよりましじゃろうが。」

『妻を離縁する者は、離縁状を渡せ』と決められとる。ほいじゃがわしゃ言うとかでえ。妻が何も悪いことをしとらんのに、離縁状だけ渡して離婚するもんは、妻に姦通の罪を犯させることになるし、その女と結婚するもんにも姦通の罪を犯させることになる。(自分ばかりか相手にも罪を犯させることになる)』

「あんたらが聞いとるとおり、律法には『偽りの誓いを立てるな。主に対して誓ったことは、必ず果たせ』と決められとる。ほいじゃがわしゃ言うとかでえ。そもそも誓いなんか立てちゃいけん。天にかけて誓うちゃいけん。そこは神様がおってのところじゃ。地にかけて誓うちゃいけん。そこは神様が立たれるところじゃ。エルサレムにかけて誓うてもいけん。そこは王なる神様の都じゃ。自分の頭にかけて誓うてもいけん。あんたは自分の髪の毛一本じゃって、白うも黒うもできんじやろうが。あんたらはとにかく『やることはやる』『やらんことはやらん』とだけ言いんさい。それ以上は性根の腐ったやつと言いぐさじゃ。」

「あんたらが聞いとるとおり、『目には目を、歯には歯を』と決められとる。ほいじゃがわしゃ言うとかでえ。ワリい(悪い)やつらあに立ち向かうな。だれかがあんたの右の頬を殴ったら、左の頬も向けんさい。あんたを訴えて下着を取ろうとするもんには、上着も取らせてやりんさい。荷物を1キロ運べえ言われたら、2キロ行ったりんさい。欲しがるとするもんにはくれて(与えて)やりんさい。借りようとするもんには、喜んで貸してやりんさい。」

「あんたらが聞いとるとおり、『隣人を愛し、敵を憎め』と決められとる。ほいじゃがわしゃ言うとかでえ。敵を愛して、あんたらをひどい目に遭わせる連中のために祈りんさい。あんたらのお父さんの子になりたいじやろう。天のお父さんは悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しいもんにも正しゅうないもんにも雨を降らしてじやろうが。自分を愛してくれるもんを愛したところで、神様は褒めてくれやせん。徴税人でも同じことをしょうるじやないか。自分の仲間だけに親切にして何が偉かろうが。神を知らん人でも同じことをしょうるじやないか。ほいじゃけえ、あんたらのお父さんが完璧なように、あんたらも完璧を目指さんといけん。」

## 第6章

「人に見せびらかそう思うてエエことをしちゃあいけんで。そげなことをしたら、あんたらの天のお父さんから褒美をもらえんようになるけえのう。ほいじゃけ、施しをする時には、人の集まる所で、『今から施しますよう』言うてからやるような偽善者になっちゃあいけん。よういうとかでえ。そんなら(そういう人たちは)はあ(既に)褒美をもらうとる。施しをするときには、右手がやとることを、左手にばれんようにせにやいけん。とにかく人に知られんようにやりんさい。そうすりゃあ、何でもお見通しの天のお父さんがあんたに褒美を下さる。」

「祈る時には、偽善者のようになつたらいけんで。あんたらあは(彼らは)、人に見てもらおう思うて、人の集まる所で祈りよう。よういうとかでえ。そんなら(そういう人たちは)はあ(既に)褒美をもらうとる。ほいじゃけえ、祈る時には、自分の部屋の押入の中で、天のお父さんに隠れて祈りんさい。そうすりゃあ、何でもお見通しの天のお父さんがあんたに褒美を下さる。それとのお、祈る時には、神を知らん人みたいにぐどぐど唱えちゃいけんで。神を知らん人はようけい言やあ聞いてもらえる思うとる。あんたらあまねをしちゃあいけん。あんたらのお父さんは、まだ願う前から、あんたらを要るもんをよう知つとってなんじゃけえ。

ほいじゃけえ、こう祈りんさい。

『天におられるわしらのお父さん、お名前が尊ばれますように。お父さんの国が到来しますように。天でも地でもお父さんが思うとられるようになりますように。』

わしらが生きていくための食べもんを、今日も与えて下さい。わしらも負い目のあるもんを赦しますけえ、わしらの負い目を赦して下さい。わしらを誘惑に遭わせず、悪から助け出して下さい。』

あんたらが人の過ちを赦すんなら、あんたらのお父さんもあんたらを過ちを赦して下さい。ほいじゃが、あんたらが人の過ちを赦さんのなら、あんたらのお父さんもあんたらを赦しやせん。」

「断食する時には、偽善者みたいにさえん(精彩がない)顔をしちゃあいけん。偽善者は、断食しとるんを知ってもらいとうて、わざとたいぎげな(疲れた)

顔をするんよ。よういうとくでえ。そんならは(そういう人たちは)はあ(既に)褒美をもらうとる。あんたらが断食する時には、髪を整えて、つやつやの顔でおりんさい。そうすりゃあ、人には気づかれんが、何でもお見通しの天のお父さんが見とって下さって、ご褒美を下さる。」

「あんたらこの地上に富を蓄えるんはやめんさい。虫に食われたり、さび付いたりするし、泥棒に盗まれたりするじゃろう。富は天に蓄えんさい。そしたら、虫に食われたり、さびついたりせんし、泥棒に盗まれることもありゃせん。あんたが一番大切じゃ思うとるものところに、あんたの心もあるんよ。」

「真理を見分ける目を持つとるか?これが一番大切じゃ。目が確かなら、何をやっても大丈夫じゃ。目が曇ったたらだめじゃ。何をやってももういかん。それどころか、どんどんひどくなってしまふ。」

「二人のご主人様に同時に仕えることはできん。一方を好いて他方を嫌うか、一方を重んじて他方を軽んじるかどっちかじゃ。それとおんなじように、あんたらは神様と金様に同時に仕えることはできん。」

「ほいじゃけえ、よう言うとくでえ。この世の暮らしの中で、何を食べようか、何を飲もうか、何を着ようかいうて悩みなさんな。食べ物よりも命の方がどんだけ大切か。衣服より体の方がどんだけ大切か。空の鳥をよう見んさい。種も蒔かず、刈り入れもせず、倉に蓄えてもおらん。じゃが、鳥は飢え死にせん。あんたらの天のお父さんがやしのうとるけえじゃ。あんたらの方が空の鳥よりずっと価値があるじゃろうが。あんたらのなかでだれか、心配したけえいうて、ちいとでも寿命を延ばすことができるもんがおるか。なんで着るものことで悩むんな。野の花がどうやって育ちよるんかよう見てみい。耕しもせんし、紡ぎもせん。ほいじゃが、世界一の金持ちじゃったソロモン王でも、この花の美しさにはかなわんじゃろうが。今日はあっても、明日は燃やされてしまう野の花でさえ、神はこがい(このように)に装ってくださるんじゃ。あんたらにようしてくだらんはずはなからうが。信仰がこまい(小さい)のう。」

ほいじゃけえ、『何を食べようか』『何を飲もうか』『何を着ようか』言うて、悩みなさんな。そりゃみな、

神を知らん人が必死で求めとるもんじゃ。あんたらの天のお父さんは、これらのもんがあんたらに必要なことはよう知っとってじゃ。何よりもまず、神の国と神の義を求め続けんさい。そうすりゃあ、他のもんはみなついてくるけえ。明日のことまで心配しんさんな。明日の心配は明日したらええ。今日の苦労は今日でおわりじゃ。」

## 第7章

「人を裁いちゃいけん。あんたらも裁かれんためじゃ。あんたらは、自分が裁いたように裁かれ、自分が量るように量られる。」

人の目の中にある木くずは見つけるのに、なんで自分の目の中の丸太には気づかんのか。仲間に、『あんたの目の木くずを取らしてくれえ』いうてなして(どうして)言えるんな。自分の目に丸太が入るとるじゃないか。偽善者!自分の目から丸太を取り除くんが先じゃろうが。ほいで、よう見えるようになってから、仲間の目の木くずを取っちゃりんさい。

神聖なもんを犬にやっちゃあいけん。豚に真珠を投げ与えちゃいけん。かえって、腹立てってあんたら八つ裂きにされるんがおちじゃ。」

「求め続けんさい。そうすりゃあ、与えられる。探し続けんさい。そうすりゃあ、見つかる。叩き続けんさい。そうすりゃあ、開けてもらえる。だれでも、求め続けりゃあ与えられ、探し続けりゃあ見つけ、叩き続けりゃあ開けてもらえる。」

あんたらあ、自分の子がパンを欲しがりようるのに石はやらんじゃろう。魚を欲しがりようるのに、蛇はやらんじゃろう。悪党でも自分の子どもにゃあええもん(良い物)をやるのに、あんたらの天のお父さんがええもんをくれんはずがない。ほいじゃけえ、人からしてもらいたい思うたら、そのとおりを人にしてやりんさい。それこそ旧約聖書の教えを守ることになる。」

「頑張って狭い門から入りんさい。広い門は滅びに通じる道の入り口じゃ。歩きやすそうじゃけえようけい(多く)入りよる。ほいじゃが、永遠の命に通じる門は狭いし、道も細い、みつけるんもいたいしい(難しい)。」

「偽教師に気をつけえよ。あんならあは羊の皮を被って近づいてくるが、中身は恐ろしいオオカミじゃけ

え。そいつが正しいかどうかは、行動で分かる。茨にぶどうは成らんし、あざみにイチジクはならん。エエ(良い)木にはエエ実がなり、悪い木には悪い実がなる。エエ木に悪い実はならんし、悪い木にエエ実はならん。エエ実を結ばん木は切り倒されて燃やされてしまう。要するに、教えじゃのうて、行動で正しいかどうかを見分けんさい。」

「わしに向かって『主よ、主よ』言うもんがみな、天の国に入れるわけじゃないで。わしの天のお父さんの思いを実行するもんだけが入れるんじゃ。この世の終わりに、ようけのもんが『主よ、主よ、わしらは御名によって預言し、御名によって悪霊を追い出し、御名によって奇跡を行ってきましたけえ(天の国へ入れて下さい)』いうて言うじゃろう。わしやきっぱり言うで。『おまえらのことなんか知るか!出て行け、悪党ども!』」

「最後に言うで、わしの今までの話しをよう聞いて実行するもんは、岩の上に家を建てた賢い人とおんなじじゃ。雨が降って、川が溢れ、大風が吹いてその家を襲っても、岩の上に建っとるけえビクともせん。わしの今までの話しを聞いても実行せんもんは、砂の上に家を建てたバカな人とおんなじじゃ。雨が降って、川が溢れ、大風が吹いてその家を襲ったら、ひどうめげて(壊れて)、跡形ものうなった。」  
(普段は分からないが、人生の試練に遭った時、イエス様の教えを実行していたかどうか分かる、というたとえ話)

イエス様が話し終わると、集まった人らあはその教えにプチ驚いた。律法学者みたいなつまらん教えじゃのうて、圧倒されるような教えじゃったけえじゃ。